

神姫バス(株)・兵庫六甲農業協同組合・三田市



路線の維持に苦しむ神姫バス(株)と、農産物の輸送手段確保に悩む兵庫六甲農業協同組合及び生産者が路線バスで農産物を運送する貨客混載を実施し、地元の三田市もサポート。バス路線活性化とともに、農産物の輸送手段確保による農家の農業再開等、地域全体の活性化にも寄与。

(取組の概要)

1. 多様な主体の実質的参画

- ・地元の交通事業者である神姫バス(株)が農産物の直売所を営んでいる兵庫六甲農業協同組合(以下、JA兵庫六甲)に提案して実現。地域住民である生産者とも協議を重ね、令和3年1月から実証運行、同年5月から本格運行を開始。
- ・生産者は高齢である一方、農産物出荷のために直売所まで片道約10キロを20分かけ自家用車や路線バスで往復しなければならず、出荷作業が困難となっていた農家もあった。この取組のおかげで、「生産技術や作る意思はあるものの、出荷作業が困難な生産者は多い。こんなに嬉しいことはない。」、「年をとって運ぶのが大変なので野菜作りをやめていたが、バスで運んでもらえるならと、また作り始めた。」といった声が挙がっており、地域住民のなりわいや生きがいを生み出している。
- ・地元の三田市も積極的に協力しており、生産物の収穫と貨客混載を体験できるプログラムを主催した。また、地元の小学校による体験学習も検討しており、地元が一体となって貨客混載を支えている。

2. 創意工夫

- ・対象の「三田～小柿」線は通学需要のため朝夕は乗客が多いが、昼は乗客が少なく空席が目立っていた。一方で、JA兵庫六甲の直売所は、午後から品薄となっていたため、農産物を受け入れたいと思っており、両者のニーズがマッチした。
- ・また、出荷困難となっていた農家が農業を再開(少なくとも3件)するなど、生産者も喜ぶとともに、農産物の購入者もいつでも新鮮な農産物を購入できるということで好評となっている。行政としても赤字路線の補助額が減少。まさに「1石5鳥」の取組となっている。
- ・350kg未満の許可不要の形態で貨客混載を実施。また、①バス運転手はコンテナの積み下ろしを実施しないこと、②乗客を終点の三田駅前で降ろした後、回送で直売所まで届けること、③起点となる停留所にJA兵庫六甲の支店があり、時間に余裕を持って積み込みをすることが可能であることから、バスの運行に支障なく安全に取組を行っている。
- ・地域の路線バスを活用して貨客混載を本格実施した全国的にも珍しい、先がけとも言える取組であり、多くのメディアに取り上げられることで、宣伝となって人を呼び込むとともに、生産者にも励みとなった。

3. 自立性・継続性

- ・毎週火・金曜日に貨客混載を実施。運行便当たり増加人員に換算すると2.78人増(約1,500円増)となっている(令和3年1月～令和4年1月実績)。
- ・貨客混載の取組が順調に進んでいるため、同じ路線の別地域においても10月から貨客混載の取組を開始(毎週月曜日に実施)。
- ・今回の取組を皮切りに、兵庫県内の他路線(6地域)において、地域の名産品を貨客混載で輸送し、地域経済活性化に貢献。利用者がバスを認知する機会を生み、利用を促すこともねらっている。



バス停から販売所まで輸送



集荷の様子



車内の様子



直売所での販売風景